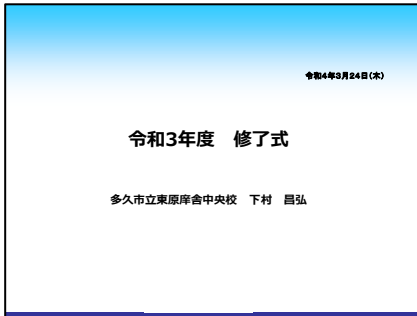


令和4年3月24日（木）

令和3年度 修了式

東原庠舎中央校 下村昌弘

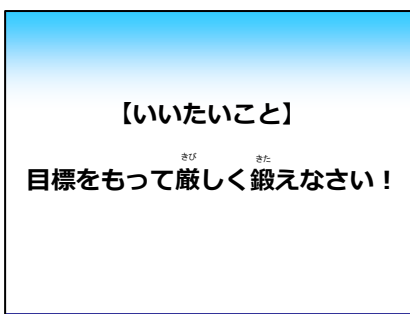


全校の皆さん、おはようございます。下村昌弘です。令和3年度修了式にあたり、少しお話をします。

これまでも、始業式や終業式など、折に触れて皆さんの前でお話ししたり、学校通信『おへそ』で皆さんに伝えなかったことを書いたりしてきました。

今日はそのまとめということで、私が皆さんに伝えなかったことを言わば「最後の授業」としておさらいしたいと思います。そういえば聞いたなあとか、読んだことあるなあと思って聞いてくれると嬉しいです。

それから、ただ画面を見るだけではなく、メモを取りながら聞いてくれると嬉しいです。連絡帳や学活ノートなどなんでもいいです。大事だなと思ったフレーズや気に入った言葉を一言でもいいので、メモに残すと後で考える際のきっかけになります。では、準備ができる人は遠慮せずに準備をしてください。



準備はいいでしょうか。では、結論を先にいいます。それは「目標をもって自分を厳しく鍛えなさい」ということです。

このことを、まずは、1、2、3、4年の低学年ブロックみなさんに向けて、次に、

5、6、7年生の中学年ブロックの皆さんに向けて、最後に、8年生の高学年ブロックに向けて話をします。

自分の学年の話の時には「聞き耳を立てて」、他の学年の時には「リラックスして」聞いてください。たくさんメモを取ってください。

まずは、低学年のみなさんへのお話です。



「うさぎとかめ」の話です。皆さん、知っていますよね。うさぎとかめのかけくらべ。はじめは断然うさぎが速い。ゴールを前にうさぎは余裕を見せて居眠りを始める。その際にかめはうさぎを追い抜き、先にゴールしてしまう、という話。

ここでの教訓・教えはなんでしょう？

うさぎの立場から言えば、「思いあがって油断しては失敗する」。
かめの立場から言えば「コツコツやれば大きな成果が得られる」といったことでしょうか。

では、そこで問題です。

「なぜ、かめはうさぎを追い抜く時に、起こしてあげなかったのでしょうか？」 ちよっと考えてみてください。

あなただったら起こしてあげますか、どうしますか？ かめはずるかったのでしょうか？ 勝つためにはこれしかなかったのでしょうか？

私は、そうではないと思います。

それはかめの「視線」を考えれば分かります。かめはどこを見ていたでしょう？ かめの視線の先には、きつとうさぎの姿はなかったでしょう。かめが見ていたものは、山の頂上、つまりゴールです。つまり、かめは「目標」から目をそらさなかったのです。

それに比べ、うさぎはどうでしょう。うさぎは、かめのことばかりを気にしていた

のではないのでしょうか？ うさぎは後ろばかり見ていた、つまり他人と比べてばかりいたのではないのでしょうか？

まとめます。皆さん「目標をもって、そこから目をそらさない」でください。これが私の言いたいことです。

次に、中学年の皆さん。

中学年ブロック 5年生・6年生・7年生のみなさんへ

勉 = 免 + 力
免…分娩 (赤ちゃんを産む)

強 = 弘 + 虫
弘 = 弓の弦を外した形
虫 = “テグス” という昆虫
(強い糸を取り出す虫)

「勉強」について、その意味を考えてみます。「勉強する」とよく言いますが、どういう意味でしょう。

「勉強」という字は「勉」と「強」という2つの漢字でできています。では「勉」という字の意味は何でしょう。予想してみてください。音読みでは「べん」。訓読みでは「つとむ、つとめる」。「勉くん」という名前の人もありますよね。

ある辞書には「勉」の意味として「苦しみに耐え、力を込めて努力する。無理を押しさえつけて励む」とありました。だいたい予想どおりではないのでしょうか。

また、漢字の成立を見ると、「勉」は「免」と「力」からできていて、「免」の解説が「女性がしゃがんで出産する（分娩する）様子の象形文字」となっています。

さあ、えらいことになってきました。お産の時に力む、あのガンバリ…といっても私には経験しようがありませんが、その「免」にさらに「力」を加えるのが「勉」なのです。

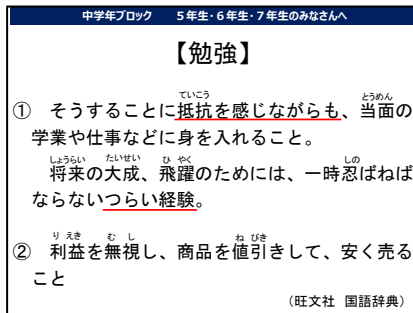
さらに「力」という字は「耒（すき）」（「鋤」の「鋤」）の形で、田んぼを耕すことにつとめるとあります。

とすると、「勉」という字は「何かを生み出す、作り上げるために、それ相応のパワーがいる」ということを表していることとなります。

一方、「強」のほうは、「弘」と「虫」を組み合わせた形です。

「弘」は弓の弦（つる）を外した形で、それに「虫」を加えているのは、その弦が「テグス」という昆虫から取り出した「しなやかで強い糸」であることを示しているそうです。

ついでに、国語辞典で「勉強」を調べてみます。



① そうすることに抵抗を感じながらも、当面の学業や仕事などに身を入れること。
将来の大成、飛躍のためには、一時我慢しなければならぬつらい経験。

② 利益を無視し、商品を値引きして、安く売ること

学校でA先生に叱られたB君が「明日からまじめに勉強します」と泣きながら言うのはもちろん①のほうの勉強です。それこそ赤ん坊であろうが何だろが産み落とすぐらいりきんでキバって心を入れ替えて頑張らねばなりません。

それに対して、魚屋のおじさんが「この鰯(いわし) どうです！ 勉強しまっせー！」と威勢良く叫ぶ時の「勉強」は②の意味です。「努め励んで、辛いけど安い値段にしときます」という意味の「勉強」なのです。

つまり、「勉強」というのは、①にせよ、②にせよ、「辛い」ものなのですね。

もし皆さんの中に「楽しみながら勉強しよう」という考えがあるとしたら、実は言葉が本来持っている意味からすると、「勉強」ではないということになります。

何かに耐えて何かを犠牲にして、力んで気張って、何かを生み出すこと。やっぱりこれしかないんじゃないですかね。「苦しい」「つらい」と思ってからが本当の「勉強」です。

では最後に高学年ブロック、8年生の皆さんへ。



今年オリンピックイヤーでしたね。ひと月前の北京オリンピックでの話です。

スピードスケート女子の小坂凜選手は15人の日本代表で唯一レースに一度も出場しないまま、初めてのオリンピックを終えた選手です。

小坂選手は、国内での優勝の経験もあったので、代表選手に選ばれたのですが、有名な高木奈那選手たちの影にかくれてしまい、とうとう補欠のまま、最後まで本番で滑ることはなかったのです。

小坂選手は最後のインタビューで「色々な人が活躍している中で自分は何もできないのが悔しかった」と語っていました。想像してみてください。補欠として一人だけ出番のなかった選手の気持ちを。

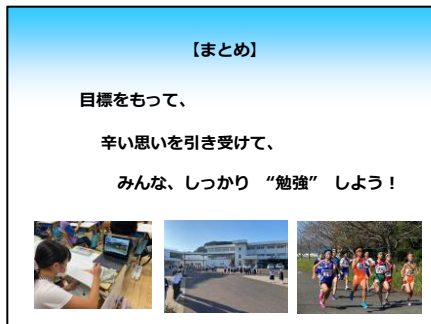
インタビュー中、小坂選手のこわばった顔つきが崩れ、涙を流してしていました。その姿は見ているこちらの胸が痛くなるほどでした。団体パシュートの最終コーナーで転倒し、優勝を逃した高木選手も泣いていましたね。でも小坂選手はその機会すらなかったのです。

「この気持ちと会場、今見ている景色を目に焼き付けて、これからの闘争心にしていきたい」。

これは彼女が語った最後のセリフです。この言葉に悲壮な決意と覚悟を感じます。誰もが日の目を見るとは限りません。人前で大きな失敗をすることもあります。でも、それを全部引き受けて人は生きていかねばなりません。

人生いいことばかりではありません。辛いこと、苦しいこと、情けないこと、悔しいこと、そんな全てのことを私たちは引き受けて生きていかねばならないのです。

では、全校の皆さん、、、まとめます。



目標をもって、辛い思いをしっかり受け止めて、勉強してください。

1年生から9年生までと一緒に生活するこの学校の良さは、下級生にとっては、あこがれの先輩、自分のモデルが身近にいること、上級生にとっては憧れの先輩にふさわしくふるまえることです。

9年間をのんびり過ごすのもいいですが、先を早く見据えられる良さがこの学校の特色です。

皆さんの将来にたくさんのいいことがあることを祈っています。頑張ってください。